



2021年 7月

第313号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長	山本 英次	国際会長 キム・サンチェ(韓国) 主題「世界とともにワイズメン」
副会長	茂木 稔	スローガン「愛と尊敬で世界を癒そう」
書記	花輪 宗命	アジア太平洋地域会長 大野 勉(神戸ポート) 主題:「100年を越えて変革しよう」 スローガン:「健康第一」
会計	小口 多津子	東日本区理事 大久保 知宏(宇都宮) 主題:「私たちは次の世代のために何が出来るか」 スローガン「絆を深める時」
直前会長	花輪 宗命	あずさ部部长 長谷川 あや子(八王子)
担当主事	中里 敦	主題:「道を拓く～愛と協力によって」
ブリテン	茂木 稔 山本 英次 大久保 重子	クラブ会長 山本 英次 主題:「コロナ禍を乗り越えて、新時代のクラブへ」

今月の聖句(2021年7月)

「されこうべ」と呼ばれるところに来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。(その時、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦し下さい。自分が何をしているのか分からないのです。») 人々はくじを引いて、イエスの衣を分け合った。

(新約聖書 ルカによる福音書 23:33~34)

7月例会プログラム (キックオフZOOM併催)

日時: 2021年7月10日(土) pm6:00~8:00

会場: 八王子市北野事務所 2F

受付: 菅野 司会: 小口

Zoom操作 中里

開会点鐘 山本会長
ワイズソング(1番のみ) 一同
ワイズの信条(心の中で)
ゲスト・ビジターの紹介 山本会長
新旧会長引継ぎ式(花輪直前会長から山本会長)
聖句・感謝の祈り 中里
卓話 「「野菜作りと地域の仲間づくりー健康な暮らしをめざして」
卓話者 藤田 智ワイズ (恵泉女学園大学
人間社会学教授 東京多摩みなみクラブ)
東京YMCA報告 担当主事 中里
報告・連絡事項 会長・各委員
スマイル 菅野
Happy Birthday
閉会点鐘 山本会長

巻頭言

11年ぶりの二度目の会長を受けて

山本英次

これまでブリテンの原稿依頼を毎月出していた私が、これからはブリテンの原稿を依頼される立場となりました。茂木稔新ブリテン委員長からの原稿依頼は表記の内容ですが、あれから11年が過ぎたのですね!あの時は、会長就任という重い責任を感じて、非常にナーバスになっておりました。

会長になった以上は特別なことをして、メンバーのみんなを引っ張ってゆかねばならないという空回りの意気込みばかりのスタートでした。そんな気持ちでクラブ運営が上手く行く

先月の例会ポイント(6月)

在籍	13名	切手(国内・海外)	0g
メン	12名	累計	0g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	92%	累計	0円
メネット	2名	スマイル	10,900円
ゲスト	2名	累計	10,900円
ビジター	0名	オークション	0円
ひつじぐも	2名	累計	0円

独り相撲で年月が過ぎ去ってゆきました。

恒例の「チャリティーコンサート」の準備中の3月11日の深夜に東日本大震災が勃発して、大混乱の毎日となり、震災の後遺症から計画停電が起り、コンサートの開催を諦めなければならぬ状況となりました。コンサートの取り止めの周知や発売済みのチケットの返金処理にメンバー全員で夢中で取り組んでその事態を乗り越える事が出来たのです。

初回の大混乱の会長時代は思い出すのも苦しい事ばかりです。

さて、11年ぶりの会長を受けるにあたり、現在の心境は至極平穏であります。今更意気込んでもお里の知れた我が身を如何に飾ろうと底の見えた実力では成る様にしかありません。花輪会長からクラブを引き継ぐことに同意してから考えました。新人の様な花輪会長が本当に自然体で会を運営し、コロナ禍の中で難しいクラブ運営を任せられながら、みんなの気持ちを上手に一つにして進むべき路を描くことに成功しました。トップの人柄が上手く機能して、活かされた素晴らしいお手本と思います。

私が、皆さんに威張れる事は、1994年10月30日からのチャーターメンバーであることで、経験は豊富ですが、人格破滅による人徳の無さが災いして何事もうまくゆきません。

28年間におよぶワイズ経験則を活かさないままに歳月が経過してしまいました。

そんな私にクラブ会長を任せた八王子クラブのみなさんの不安を考えると居たたまれません。

今年の会長標語は、「コロナ禍を乗り越えて、新時代のクラブへ」という平凡な言葉ですが、あずさ部部長に就任された長谷川あや子さんを始め、並木信一さん、久保田貞視さん達のあずさ部執行部への転籍で手薄になった八王子ですが、残された10名が力を合わせて1年間を乗り切りましょう。1年間のご協力とご支援を切にお願い申し上げます。

6月の第24回東日本区大会

小口多津子

2020年度の東日本区大会が、甲府21クラブがホストのもとで甲府湯村温泉郷常盤ホテルにて開催されました。ワイズの歴史でも初めてのかたちの今年の大会は、リモート・オンライン（zoom）による映像への参加型でした。私は、1時半からの開始にパソコンをセットし、長時間の構えへと朝からそわそわして待ちました。最初は、画面一杯に写された、甲府市内の観光から始まり、見覚えのある街の様子に、もう甲府に来ている気分させられました。

やがてプログラムに沿って、開会宣言、興水会長の歓迎の挨拶、来賓の祝辞、アジア太平洋地域会長デッドさんは、

シンガポールからリモートでの祝辞、甲府市長の祝辞と続きました。

メモリアルアワーには、ついこの間までお会いしてたのにと、親しかった方々のお顔に胸が一杯になりました。

三島クラブの鈴木忠雄さんは、八王子クラブの5周年記念、山中湖センターに銀杏の木を植樹する際に、木の手配をして下さり、一緒に植えて下さった方でした。

甲府クラブの大澤英二さん、甲府21クラブの茅野 崋さん、いつも八王子クラブとは身近にいらして、丁度、甲州街道のようにあずさ部の方々を、一本の線のように繋げて下さったお二人でした。その感謝を伝えていないうちのお別れでした。



東日本区アワーでは、各部長報告、事業主任報告と表彰が続きました。わがクラブは、ユース事業のYIA特別賞を頂きました。コロナ禍の中、中央大学ひつじぐもの連絡がブリテンに欠かすことなく報告され、そのことが賞

を頂いたのです。

続いては新旧理事引継ぎ式、新役員の紹介でした。板村哲也理事から大久保知宏新理事へ理事バッジの装着、感激の握手ならぬ肘合わせ、と「私たちは次の世代のために、何ができるか」主題の新理事所信表明がありました。

壇上でのお二人の姿は、やはり区大会の輝かしい華であり、リモートであることを忘れてしまいました。

新役員紹介では、長谷川次期あずさ部部長の素敵な写真が目には飛び込んできました。

そして、最後の板村理事の挨拶、この大変な一年を共に支えて下さった奥様への感謝が込められていて、理事の重責を感じさせられました。

2022年6月は、宇都宮市での区大会に、期待を込め感動してパソコンの蓋を閉じました。

6月第一例会卓話

「コロナ禍におけるフードバンクにみる日本社会の貧困」

茂木 稔

今回の「NPO 法人フードバンク八王子 えがお」の理事長よりのお話は、設立からの大変貴重な、また有意義なものでした。特にこの6月の北野事務所での第一例会は会員全員が出席して、時期的にも卓話の内容に的が当たった久しぶりの例会になりました。

そのNPO法人は2016年9月11日に設立されており、71名の参加者より発足したとありました。

実は私はこの話を聞いて、すぐにインターネットでこの活動について詳しく調べてみたのです。



フードバンク八王子えがお 佐野英司氏

最初の食品の提供はパン屋さんであり、売れ残ったパンを冷凍したものを提供して貰えることになったものの、それをどこに届ければ喜ばれるか自分達では分からずいたところ、貧しい家庭で塾に通えない子供たちの為に、無料で勉強を教える「八王子つばめ塾」の子供たちに提供したところ大変喜ばれ、それにより第一歩を踏み出したとの話でした。

現在は生活に困窮している家庭に、お米や他の食品を自分達の車で配達しているとの話ですが、このコロナ禍よりそれが困窮家庭の増加を引き起こし、今までは対象家庭が30~40件であったものが、昨今は60世帯にもなっているそうです。

そして母子家庭の例が多かったのですが、最近は若い男性の申し込みが増えており、その事例では本当に悲惨な状態で申し込みに来るとの話でした。

今ではこの会に対する皆さんからの支援も多くなっており、企業・商店・農家・個人よりの食品の提供が多く集まるようになっており、今度はそれらを皆さんに届けるように家庭に合わせて配分して、詰め合わせを行い、それを届け

る作業の人手が足りなくなり、そのボランティアを募集しているそうです。

今回の話を聞いて、私とほぼ同年配の佐野氏が情熱を持って取り組んで知る姿を知り、いかに今の私が社会に役立っていないかの対比を実感した思いが大きく心に残りました。

7月のサギソウ

茂木 稔

この4月28日に7人の人々でサギソウの植替え作業を我が家の庭で一緒にした皆さん、その後の生育振りはいかがでしょう。私は3鉢を作りましたが皆さんの中にも数鉢も作った方もいたはずで。

この5月・6月は割合と晴れの日が多く、また温度も割に高く経過したので良く皆育っていることでしょう。水遣りはこれからほぼ毎日必要となってきます。

しかし肥料分のあるものはやらないで下さい。この植物は徒長すると花の茎が曲がり見栄えが悪くなってしまいます。

このまま行きますと8月中旬、月遅れの旧盆頃に咲き出します。花は1茎に2個が標準ですが、上手に作ったものには3個付くものもあります。



7月5日の生育状態

私がこの鉢を譲った若い女性は何と4個の花を付けました。この花はラン科のサギソウの特徴で長く咲いています。

後日皆さんには伝えませんが、花が咲き終わる8月の下旬になってから液体肥料をやる必要が有ります。

液肥はハイポネックス1,000倍液を1週間から10日に1度やります。これを10月中旬の葉が枯れるまでに5~6回やれば、翌年の春に使う立派な根塊が出来て3倍くらいの芽のものが作られます。花が咲くまでは毎日しっかりと見てやるのが大切です。

西東京センター便り

中里 敦

- ◆暑さも日に日に増してきました。蒸れるマスクはいやですね。皆さんは、シャツを長袖から半袖に変えましたか。私はまだ長袖です。外歩きは袖をまくっていますが、どうもエアコンが苦手らしく長時間いると体が冷えて寒くなります。寒暖の差も体にこたえます。
- ◆6月28日(月)～7月3日(土)で会員芸術祭が行われました。油絵、水彩画、焼き物など〇〇点の出品があり、今年もにほんご学院や高等学院の生徒からの出品もありました。
- ◆6月9日よりサマースクール、6月23日よりサマーキャンプの受付を開始した。定員を減らし、スタッフ体制を手厚くして万全の感染対策の上プログラムを実施する。またコロナ禍の影響を含め経済的な理由でプログラムに参加が難しいご家庭を対象に、所得に応じて参加費を補助する「フレンドシップファンド」を積極的に活用する予定。
- ◆2020年7月に起きた熊本豪雨災害の被災者支援募金は、3月末までに950,928円が寄せられ、熊本YMCAと全国YMCAが協力して行っている被災者支援活動のために用いた。また、コロナの影響を受ける青少年支援募金は、3月末までに2,799,583円が寄せられ、コロナ禍により困難な状況にある留学生、ユース、子どもたちを支援する活動のために用いた。

＜東京YMCA 主な行事予定＞

- ・「長崎原爆被災写真」パネル展 7月7日～16日 会場：東陽町センター
- ・講演会「思春期の課題と支援 ～性と人権を中心に」 7月10日(オンライン)
講師：齋藤梓氏(公認心理士)(東京YMCA高等学院主催)
- ・第5回フードパントリー(食品の無料配布) 7月22日 東陽町センター／江東センター

ひつじぐも便り

国際ボランティアサークルひつじぐも

2年 大野優哉

皆様こんにちは、ようやく梅雨の季節も明け本格的な夏が訪れましたが、お健やかにお過ごしになっているでしょうか？ 私は当サークルに所属しています現二回生の大野優哉と申します。私達の世代は大学に入学した当初からコロナウイルス下での学生生活を送っており、従来のようなキャンパスライフというものを送っていない状況にあります。少し表現を変えるなら、一番にコロナウイルスの状況下で自分達の学生生活を充実したものにできるか試行錯誤している世代にもあたるわけです。

私自身はアルバイトやサークル活動などでも十分とは言えない状況下にて活動を現在行っています。しかしながら、その中でもコロナウイルスの状況下だからこそできることに着目して新たなことに活動しています。例を挙げると地元の社会福祉協議会での学習支援ボランティアや行政機関でのインターンシップ活動など今まで目を向ける機会がなかった自身の故郷での活動が主になります。こうした活動の中で少しずつではありますが、自身の将来に対するビジョンというものが明確になりつつあります。大学を卒業し、社会人になった後も私達の世代はコロナ世代と呼ばれる場面も出てくるのではないかと感じています。そんな時でも自分達は心から悪戦苦闘しながらも全力で学園生活を自己の成長に繋げていけるものにできたと思えるようになりたいと感じています。不安な日々を送っているのは学生だけではありません。私自身も最近になり、一日ごとの生活と向き合うことの難しさと大切に気付かされた気がします。いつか皆様とも元気なお姿でお会いできる日を心待ちにしております。最後になりますが、今年も幸多い年でありますようお祈り申し上げます。

今月の聖句によせて (2021年7月)

「世に絶ゆる 癩(らい)者と思えば 後の世に 生けるしるしの 歌ぞ残さむ」

6月28日、朝日新聞夕刊の一面に、「あなたはきっと橋を渡ってきてくれる—そんな副題のついた単行本「訴歌」(皓星社)が出版された。」との記事が掲載されました。「全国のハンセン病療養所で詠まれた短歌や俳句、川柳約3300が収録されている。差別や偏見を受け、隔離生活を強いられた患者たちの喜怒哀楽が詰まった一冊だ。「待っています。あなたはいつかきっと私たちのことを知り、理解してくれると思うから」。副題は、患者たちの社会への訴えでもある、との説明が続いています。冒頭の短歌は、紙面上段に大きな文字で紹介された短歌です。記事中には、「嫌われる 病みにあれば 自殺せよと 吾に迫れる 母を憎まず」の歌も紹介されています。国は、1931年に「癩予防法」を制定、すべての患者を強制隔離!できるようにし、この法律1996年に廃止されるまで、続きました。治療可能で伝染性のきわめて弱い病気であるにも拘わらずです。無知というだけでは説明できない、差別偏見を生む人間の罪深さを思わされます。

一生をハンセン病の患者に捧げた、「鈴木智子さん」というカトリック信徒がいました。この鈴木さんが手記で次の詩を記しています。「主よ、我はわが手を わが手のいまだ残りしところを 御身に捧げまつる すべては主のものなれば。いと慈悲深き主よ、願わくば 健やかなる手もて悪をなす人々を許したまえ」 (鈴木智子著「ある青春の軌跡」女子パウロ会刊)

イエス・キリストは、十字架にあって、自分をゆえなく十字架にあげた人々のために、「父よ、彼らをお赦し下さい。自分がなにをしているのか分からないのです。」と祈られました。 並木信一

〈報告〉

2021年6月例会

日時：2021年6月26日（土）18：00～20：00

会場：北野事務所大会議室（対面）

出席：大久保・久保田・小口・中里・並木信一・並木真・長谷川・花輪・福田・茂木・望月・山本

メネット：久保田メネ・並木信一メネ

ゲスト：佐野英司さん（卓話者）・酢屋善元さん

合計16名

・卓話「コロナ禍におけるフードバンクにみる日本社会の貧困」佐野英司氏（NPO法人フードバンク八王子えがお理事長）

2016年3月開設。八王子市の無料塾「つばめ塾」との交流から始まり、コープみらで周辺地域によびかけフードドライブ360kg集まったのをスタートとする。フードロスの考え方ではなく、困った時はお互い様、お裾分けの精神で行っている。

・東京YMCA報告

チャリティランは昨年と同じくアプリで行う。

・スマイルの10,900円はNPO法人フードバンクえがおに寄付。

◇ 会への寄付金：辻直治氏（元会員）3,000円

卓話者紹介

「藤田 智（ふじた・さとし）先生 1959年、秋田県湯沢市生まれ。岩手大学農学部、同大学院 修了。恵泉女学園短期大学助手、講師、助教授を経て、恵泉女学園大学准教授、現在教授として働く。専門は、野菜園芸学、農業教育学。学生教育に重きを置くが、NHK 趣味の園芸「やさしいの時間」講師、日本テレビ「世界一受けたい授業」講師なども務めている。東京多摩みなみワイズメンズクラブ・チャーターメンバー」

7月のお誕生日の皆さん

花輪 宗命さん 7月 8日

編集後記：今回から私、茂木がブリテンの原稿依頼・原稿収集・原稿編集・校正依頼・校正修正・印刷作成・ブリテン折り畳み・発送者宅持ち込み、と独りでやることになりました。今日は作成に取り掛かり4日目です。まだ校正の段階です。新しいワード2019に慣れていないので本当に大変です。今度も続けられるか心配です。

高尾わくわくビレッジ便り

館長 菅野牧夫

先日お客様から窓ガラスに何かぶつかったから見て来てくれと言われました。慌てて現場に行ってみると、鳥が窓の下に倒れていました。窓にぶつかって気絶してしまったようです。拾い上げて見たらガビチョウのようでした。手の中で意識を回復してきましたので森に行き枝にとまらせて飛び立つのを待ちました。少しして完全復活したのか元気に飛び立っていきました。ガビチョウは特定外来種ですが、生き延びてくれてホッとしました。

鳥の話が続きますが、下見にいらしたお客様を案内していてビオトープのあたりで話をしていると、池の上をカワセミが飛んでいました。昨年池の整備をしたことが影響しているのか、わくわくビレッジでカワセミを見られるとは思いませんでした。野生の生き物たちが過ごしやすい環境になっているのかと思い、うれしい気持ちになりました。そしてわくわくビレッジに遊びに来るお客様にも見てもらえるように環境を維持していかなければいけないと考えさせられました。

6月に入り緊急事態宣言は解除されましたがまん延防止重点措置が引き続き発令され、わくわくビレッジはお客様が戻ってきていません。宿泊は個人のお客様がほとんどで、6月の合計人数は154名とワーストに近い数字となってしまいました。学校団体は宿泊を日帰りに変更して利用しています。6月の終わりに幼稚園の子どもたちが遠足であそびに来ました。久しぶりに館内に子どもたちの笑い声やおしゃべり声が聞こえて、明るい気持ちになりました。あまりにも久しぶりだったので忘れていましたが、野外活動施設に子どもたちの笑い声はなくてはならないものですね。八王子市のワクチン接種も6月分7回が無事に終了しました。のべ4000名強の方が接種を受けました。

本日からわくわくビレッジでは七夕のイベントが始まりました。正面玄関を入ったところに笹(竹)を飾り、遊びに来た人達に短冊を書いてもらいました。願い事が叶いますように・・・

